

吉本 梨乃
ヴァイオリン・リサイタル

Rino Yoshimoto Violin Recital

北村 明日人 (ピアノ)
Asuto Kitamura (Piano)

2026 年
5月20日(水) 19:00

サントリーホール ブルーローズ (小ホール)

主催 笹川音楽財団
(旧称：日本音楽財団)

smf Sasakawa
Music
Foundation

〒107-0052
東京都港区赤坂1丁目2番2号
Tel: 03-6229-5566



❧ プログラム ❧

ブラームス：F.A.E ソナタから 第3楽章「スケルツォ」

Brahms : “Scherzo” from F-A-E Sonata

アイルランド民謡 / クライスラー編：ロンドンデリーの歌

Old Irish Melody / arr.Kreisler : Londonderry Air

クライスラー：ウィーン奇想曲 作品2

Kreisler : Caprice Viennoise, Op.2

クライスラー：シンコペーション

Kreisler : Syncopation

クライスラー：ウィーン風狂詩的幻想曲

Kreisler : Viennese Rhapsodic Fantasetta

クララ・シューマン：3つのロマンス 作品22

Clara Schumann : 3 Romances for Violin and Piano, Op.22

I. Andante molto

II. Allegretto. Mit zartem Vortrage

III. Leidenschaftlich schnell

ロベルト・シューマン：ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 作品121

Robert Schumann : Sonata for Violin and Piano No.2 in D Minor, Op.121

I. Ziemlich langsam - lebhaft

II. Sehr lebhaft

III. Leise, einfach

IV. Bewegt

**** 休憩 Intermission ****

🎵 曲目解説 🎵

ブラームス：F.A.E ソナタから 第3楽章「スケルツォ」

F.A.E. ソナタは、1853年10月、3人の作曲家の共作として生まれた。発案者はドイツ・ロマン派の代表的な作曲家ロベルト・シューマン（1810～1856）。彼の呼びかけに応えたのは、シューマンを慕った20歳のヨハネス・ブラームス（1833～1897）、そしてシューマンの弟子でありブラームスの友人でもあったアルベルト・ディートリヒ（1829～1908）である。3人は共通の友人である22歳の名ヴァイオリン、ヨーゼフ・ヨアヒム（1831～1907）への贈り物としてこのソナタを作曲した。タイトルの「F.A.E.」とは、ヨアヒムの座右の銘「自由に、しかし孤独に（Frei aber einsam）」の頭文字を取ったものである。ブラームスが担当したのは第3楽章。ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」を思わせるタタタ・ターンというリズム動機が印象を放つ一方、伸びやかなメロディーが重なる。中間部は穏やかな表情を帯びるが、近年の研究では、ブラームスはその主題を数箇所書き換えたこと、その理由はシューマンのチェロ協奏曲との類似を和らげようとした可能性が指摘されている。

クライスラーによるヴァイオリン名曲

20世紀を代表するヴァイオリニスト、フリッツ・クライスラー（1875～1962）。「愛の喜び」や「美しきロスマリン」といった軽妙洒脱な彼の音楽は、おそらく多くの人々が一度は耳にしたことがあるだろう。音楽の都ウィーンに生まれ、幼少期からヴァイオリンに親しみ、天才的なヴィルトゥオーゾとして演奏活動を展開した。ユダヤ系であった彼は、ナチズムが台頭するヨーロッパを離れてアメリカへと渡り、ニューヨークに永住した。

彼の残した数々の小品は、技巧的でありながらも親しみやすく、大衆的な人気を博した。《ロンドンデリーの歌》はアイルランドで愛され続けてきた民謡で、「ダニー・ボーイ」としても親しまれているメロディー。《ウィーン奇想曲》は、クライスラーが故郷への愛着を込めた、甘くノスタルジックな小品。《シンコペーション》はA-B-A-Bと進行する小粋な小品。Bの部分では拍の裏にアクセントを置くシンコペーションのリズムが生き生きと響く。《ウィーン風狂詩的幻想曲》は晩年のクライスラーが、ヴァイオリンとオーケストラによる録音のために書き下ろした作品。1846年12月にRCA ピクチャー交響楽団とともに収録したこの曲が、彼の最後のスタジオ録音となった。本日はピアノ伴奏版でお届けする。

クララ・シューマン：3つのロマンス 作品22

ロベルト・シューマンの妻であり、当時最高峰のピアニストでもあったクララ・シューマン（1819～1896）が、1853年に作曲しヨアヒムに献呈した作品である。「ロマンス」は歌のように親しみやすい旋律と、親密で叙情的な気分を特色とする小品ジャンルである。クララが好んだジャンルのひとつであり、本作にも詩情に満ちた筆致が息づいている。クララはヨアヒムとともに各地の演奏会でこの作品を取り上げた。

第1曲は、流麗かつ情熱を湛えた旋律がしなやかに歌われる。第2曲は伸びやかな旋律をヴァイオリンとピアノが優美に交わしていく。主要部はふと翳りがよぎる繊細な表情の変化が印象深く、中間部は明るく朗らかな表情を見せる。第3曲は、ピアノの分散和音の伴奏に乗せて、ヴァイオリンがあふれるような感情の高まりを歌い上げる。この作品はクララが遺した最後の室内楽曲となった。翌1854年にロベルトが精神疾患のため入院以後、彼女は作曲の筆をほぼ絶ち、以後は演奏家・教育者として、また夫の作品を世に届けることに生涯を捧げることとなる。

ロベルト・シューマン：ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 作品121

1851年10月末、ロベルト・シューマンがわずか一週間ほどで書き上げたこの曲は、タイトルに「ピアノとヴァイオリンのための大ソナタ第2番」と記されており、4楽章構成のスケールの大きな作品となっている。同じ年に作られたソナタ第1番よりも規模・書法ともに充実した力作である。同い年のヴァイオリニストで友人のフェルディナント・ダーフィト（1810～1873）に献呈した。

第1楽章の序奏で力強く提示される「レ-ラ-ファ-レ」のモチーフは、ダーフィト（David）の名の綴りから導き出されたもので、続く第1主題にも受け継がれ、作品全体の核をなしている。第2楽章はスケルツォ風の生き生きとした楽想が特徴的で、ヴァイオリンとピアノはスタッカートで弾むように交わり、明るく輝かしいコーダで閉じられる。第3楽章はコラール「深き苦しみの淵よりわれ汝を呼ぶ」に基づく変奏曲。ピッツィカート（指で弦をはじく奏法）で静かに奏でられる主題が素朴な祈りのように心に沁みる。終楽章はソナタ形式によるフィナーレ。分散和音による旋律やポリフォニックなピアノの書法に、パロック協奏曲を思わせる風格が漂う。

解説：飯田 有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

吉本 梨乃

ストラディヴァリウス 1736 年製ヴァイオリン「ムントツ」



©Keiji Fujita

2003年神戸生まれ。3歳でヴァイオリンを始め、国内のコンクールで優勝・入賞。14歳からウィーン国立音楽大学のギフトコース、大学入学準備クラスでミハエル・フリッシェンシュラガー教授に師事。17歳からエリザベート王妃音楽院でオーギュスタン・デュメイ氏に師事。

第16回パドバ国際音楽コンクール（イタリア）弦楽器部門とヴィルトゥオーゾ部門、ソリストオーケストラ部門で優勝、全部門グランプリを受賞。優勝者ツアーとして、ロシア、イタリアで演奏し大成功をおさめたほか、AADGT25周年記念コンサートに招待されニューヨークのカーネギーホールで演奏。2022年、第3回アイザック・スターン国際ヴァイオリンコンクールでファイナリスト、第10回フリッツ・クライスラー国際ヴァイオリンコンクールで第2位受賞。2025年、第58回パガニーニ国際コンクールで第2位受賞。

2021年、ウィーンコンツェルトハウスでウィーン室内管弦楽団と共演、2022年、ウィーン室内合奏団とソリストとしてスペインツアーを行い、大好評を得る。以降もウィーン楽友協会ウィーン放送交響楽団と、ブルガリアのヴァルナ音楽フェスティバルでブルガリア国立放送交響楽団と、さらにベルギーのフラスカティオーケストラ、中国の上海交響楽団、日本フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団と共演を重ねている。

音楽の友2020年「ヴァイオリンの新星たち」の特集で紹介された。2020、2021年度ローム音楽財団奨学生。

Rino Yoshimoto

Stradivarius 1736 Violin “Muntz”

22-year-old Japanese violinist Rino Yoshimoto has captivated audiences around the world. She has performed in the world's most prestigious halls, including Carnegie Hall and the Golden Hall of the Musikverein in Vienna. Her powerful command of standard violin literature has led her on concerto and recital tours across Europe. She was invited on a tour to Spain with the Vienna Chamber Orchestra as a soloist and it was received with critical acclaim. She has performed many solo recitals as well as participated in numerous orchestral projects in Japan, Austria, Bulgaria, Greece, the USA, Russia, France, Belgium, and Italy.

Known for her phenomenal musicianship, Ms. Yoshimoto is a prizewinner of numerous international violin competitions, including the 16th Padova International Music Competition "Premio Citta Di Padova", the 10th Fritz Kreisler International Violin Competition in 2022 (2nd place), the 2022 Shanghai Isaac Stern international violin competition and the 58th Premio Paganini International Violin Competition (2025).

She is currently studying at the Queen Elisabeth Music Chapel and the Royal Conservatory of Brussels in the classes of Prof. Augustin Dumay and Prof. Yossif Ivanov. She has studied with Masako Kida, Gerald Poulet, Mauro Iurato, Yoshio Unno, and Michael Frischenschlager.

北村 明日人 (ピアノ)
Asuto Kitamura, piano



© ヒダキトモコ

神戸市出身。第46回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリおよび聴衆賞。第17回東京音楽コンクール・ピアノ部門第2位。

東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団等と共演。

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、スイスのチューリヒ芸術大学音楽学部および大学院ソリストディプロマ卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程を修了。

テレビ朝日『題名のない音楽会』、NHK-FM『リサイタル・パッショ』などに出演。これまでに5枚のアルバムをリリース。現在、東京藝術大学非常勤講師。

Born in Kobe City, Asuto Kitamura is the winner of the Grand Prix and Audience Award at the 46th PTNA Piano Competition and 2nd prize winner at the 17th Tokyo Music Competition (Piano Division).

He has Performed with orchestras such as the Tokyo Philharmonic Orchestra, Tokyo City Philharmonic Orchestra, New Japan Philharmonic Orchestra, and Osaka Symphony Orchestra.

He Graduated from the Tokyo University of the Arts High School of Music and the Zurich University of the Arts (Switzerland) and Graduate School of Music (Soloist Diploma). He has also completed a Master's program at the Tokyo University of the Arts Graduate School of Music.

He has appeared on TV Asahi's "Untitled Concert" and NHK-FM's "Recital Passio," among others, and has released five albums to date. He is currently an adjunct lecturer at Tokyo University of the Arts.



ストラディヴァリウス 1736年製ヴァイオリン「ムンツ」 Stradivarius 1736 Violin "Muntz"

英国バーミンガムの有名な収集家でアマチュア・ヴァイオリン奏者の H.M. ムンツが1874年から所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737年に死去したストラディヴァリが、最晩年に製作した楽器の1つとして知られ、楽器の内部には、ストラディヴァリが「d'anni 92 (92歳)」と書いたラベルが貼られている。透明な黄褐色のニスが楽器のほぼ全体に綺麗に残っており、保存状態も音色も格段に優れている。

This violin takes its name from a famous collector and amateur violinist, H.M. Muntz of Birmingham, England, who owned it from 1874. It is known to be one of the last instruments made by Stradivari, who passed away in 1737. The label attached to this instrument bears an Italian inscription, "d'anni 92 (92 years old)", handwritten by Stradivari himself. It has a firstclass reputation for its excellent condition and tonal quality.

笹川音楽財団

Sasakawa Music Foundation

笹川音楽財団は、1974年に日本国内の音楽文化の振興と普及を目的として設立され、創立20年を迎えた1994年からは、西洋クラシック音楽を通じた国際貢献を目的として弦楽器名器の貸与事業を実施しています。

保有する世界最高クラスの弦楽器22挺（ストラディヴァリウス製ヴァイオリン16挺、チェロ3挺、ヴィオラ1挺、グアルネリ・デル・ジェズ製ヴァイオリン2挺）を若手有望演奏家や世界で活躍する演奏家に国籍を問わず無償で貸与し、同時に、世界の文化遺産とも称されるこれらの名器を次世代へ継承するための保守・保全に努めています。また、楽器の貸与を受けた演奏家による演奏会を日本国内外で開催し、名器の音色に触れる機会を提供しています。

笹川音楽財団の事業は、日本財団の全面的な支援により実施されています。

The Sasakawa Music Foundation was established in 1974 with the objective of enhancing music culture in Japan. In 1994, the Foundation started the “Instrument Loan Project” through which the Foundation has strived to make international contributions by loaning top-quality string instruments acquired by the Foundation.

The Foundation currently owns 22 string instruments (16 Stradivarius violins, 1 viola, 3 cellos, and 2 Guarneri del Gesù violins), and as the custodian of these world-class cultural treasures, maintains them for future generations and loans them free of charge to promising young musicians and internationally active musicians regardless of their nationality. Additionally, the Foundation organizes concerts in Japan and abroad featuring musicians who have received instrument loans, providing audiences the opportunities to experience the timbre of these exceptional instruments.

The Foundation's activities are made possible by the generous support of The Nippon Foundation.

表紙写真：ストラディヴァリウス 1736 年製ヴァイオリン「ムンツ」